

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 3月分

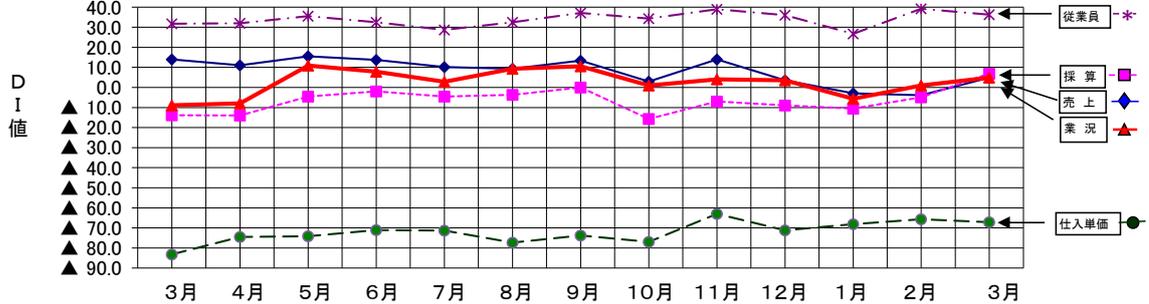
【3月の概要】

「採算」が39か月ぶりにプラス水準へ転じるも コスト上昇分を価格転嫁できるかが課題

直近の景況感を示すDI値は、「採算」が11.8ポイントと大幅に改善。2021年12月以来、39か月（3年3か月）ぶりにプラス水準に転じた。また、「売上」で8.8ポイント改善する一方、「仕入単価」は1.5ポイント悪化した。先行き見通しを示すDI値でも、「売上」「採算」はともに改善したが、「仕入単価」は悪化した。

コメントでは、北陸応援割や歓送迎会など、春のイベントに期待感が見られる一方、引き続き、原材料価格や人件費の高騰などコスト高に悩む声が多く、依然として厳しい状況が続く。勇気をもって価格転嫁できるかどうかことが事業継続の分岐点になると思われる。

直近の景況感を示すDI値(前年同月比)



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)
(Diffusion Index の略)

	2023年 2月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2024年 2月
売上	13.9	11.0	15.5	13.7	10.2	9.3	13.3	2.9	14.0	3.6	▲2.9	▲3.9	4.9
採算	▲13.9	▲14.0	▲4.6	▲2.0	▲4.6	▲3.7	0.0	▲15.7	▲7.0	▲9.0	▲10.5	▲4.9	6.9
業況	▲8.9	▲8.0	10.9	7.8	2.8	9.3	10.5	1.0	4.0	3.6	▲5.7	1.0	4.9
仕入単価	▲83.2	▲74.5	▲74.1	▲71.1	▲71.3	▲77.3	▲73.8	▲77.0	▲63.0	▲71.2	▲68.1	▲65.7	▲67.2
従業員	31.7	32.0	35.5	32.4	28.7	32.4	37.1	34.3	39.0	36.0	26.7	39.2	36.3

- ・プラス幅が増加したDI値：業況3.9ポイント
- ・マイナスからプラスに転じたDI値：売上8.8ポイント、採算11.8ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：仕入単価▲1.5ポイント
- ・プラス幅が減少したDI値：従業員▲2.9ポイント（需給均衡局面へ）

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
1月	10.5	1.9	5.7	▲38.1	33.3
2月	9.8	3.9	8.8	▲39.2	37.3
3月	15.7	6.9	5.9	▲47.1	30.4

- ・見通しが改善したDI値：売上5.9ポイント、採算3.0ポイント、従業員▲6.9ポイント（需給均衡局面へ）
- ・見通しが悪化したDI値：業況▲2.9ポイント、仕入単価▲7.9ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	ゼネコン	運送業の2024年問題により、輸送時間と輸送コストの影響が心配。
	管工事	年度末で多忙だが、高齢化や若手新規雇用の減少、時間外労働時間規制等の対応等、課題が多い。
製造業	印刷	景気回復の兆しは感じるが、価格転嫁への対応ができなかった同業の倒産・廃業が目立つ。
	鋼材	資材価格上昇や人件費アップ等コスト上昇分を、受注額に転嫁していけるかどうか課題。
卸売業	建設資材	仕入単価は急激に上昇している。□
	青果	春を迎える時期、コロナ禍前と同じように歓送迎会等、需要が活発となることを期待する。
小売業	ホームセンター	円安の長期化や物価上昇による消費の停滞の懸念など、先行き不透明な状況が続いている。□
サービス業	運輸	2024年問題が間近に迫り、収益力低下やドライバー不足が深刻。当面は体力勝負になりそう。
	タクシー	能登半島地震後、夜の飲食は低迷している。賃上げに対応したいが原資が無い。
	飲食	営業コスト全般が上昇し、利益が圧迫されている。事業継続には価格転嫁以外に道は無い。□